

OEMからデータベース全体のリストアとリカバリ操作

1. 起動時にエラーが発生すると、URL を入力した直後の OEM 画面には、エラー表示が出される（本来の OEM (Oracle Enterprise Manager) のメニューが表示されない）

2. ボタンをクリックする

3. ホスト資格証明の (OS) ユーザーとパスワードを入力して、 ボタンをクリックする

4. データベースへのログインを行う

ユーザー : .
パスワード : .
接続文字列 : 192.168.1.100:1521:orcl.rocal.domain ←固定表示
接続モード : | ▾ .

5. リカバリを開始する

データベース全体を選択して、リカバリ・ボタンをクリックする

ユーザー指示のリカバリ

リカバリの有効範囲 : | ▾ .

6. リカバリの設定を行う

ステップ 1/5 **【Point-in-Time】** 画面

- 現在の時間へのリカバリ
- 前の Point-in-Time へのリカバリ

をクリック

ステップ 3/5 **【名前の変更】** 画面

ファイルを別の場所にリストアしますか。その場合は制御ファイルは新しい場所を使用するように更新されます

- いいえ、デフォルトの場所にファイルをリストアします
- はい。新しい共通の場所にファイルをリストアします

場所 :

をクリック

ステップ 5/5 **【確認】** 画面

をクリックすると、RMAN のソースコードが表示され、編集できます

をクリックして、リストアを実行します

6. データベースのオープン

リカバリ処理のメッセージが表示される

データベースをオープン ボタンをクリックすると、オラクルが **OPEN** されます